

令和2年度

鳴門市第一小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 学校と家庭が連携し、課題に対して粘り強く取り組む児童の育成

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------|--|
| 学力向上推進員 | 委員 校長 端村達也, 教頭 尾崎徳彦, 教務主任 阿部富子, 特別支援 藤本景子 |
| 坂東 尚美 | 河野真紀(1年), 池内香絵(2年), 宮本智子(3年), 辻岡尚道(4年), 櫻井祐哉(5年), 野田雅宏(6年) |

校長

端村 達也



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や研究授業、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○算数の学習が好きで、一生懸命に問題に取り組む児童が多い。 ●学力の二極化が見られる学年があり、語彙数が少なく、文章を正確に読み書きすることに課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につくとき、学習や生活の場面で活用できる。 ・語彙数を増やし、文章を正確に読み書きしたりできる。	・児童の理解度をノートや小テストなどを通して定期的に把握し、繰り返し学習を行う。 ・読書活動の充実を図り、子ども新聞や辞書を積極的に活用する。 ・言葉の言い換えや比較などを行う。	・既習内容の苦手分野を宿題・小テストなどで繰り返し学習する。 ・文章を要約してまとめる学習を取り入れる。	・繰り返し学習で、基礎的・基本的な知識・技能は、身につくようになった。 ・語彙を増やし、文章を正確に読み書きすること、言葉の言い換えや比較は不十分だった。	子ども新聞や図書を活用し、あらすじをまとめたり、要約したりする書く活動を多く取り入れる。既習漢字を正しく使わせ、言葉の言い換えや比較で語彙を増やし、朝のモジュールを利用して基礎基本の一層の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発表できる児童が増えている。 ●自分の考えと友達の考えを比較しながら、聞いたり発表したりすることに課題がある。 ●これまでの学習を手がかりにして、自分の考えをつくり上げていくことに課題がある。	・自分の考えを根拠をもとに、しっかり書いたり述べたりできる。 ・話し合い活動を通して、自分の考えと比較しながら聞いたり、友達の考えを自分の発表に生かしたりできる。 ・文に書いたり発表したりするなどし、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	・一人で考える場面と対話の場面が繰り返されるよう工夫する。 ・何のために話し合っているのか対話の目的を子どもが意識できる言葉がけをする。 ・学習の終わりに、自分の考えが表現できる振り返りの場面を設定する。	・自分の考えをまずはノートに書いて整理してから話し合う。 ・思考ツールを使ったノートの書き方の工夫や、自分の考えと友達の考えを比較することを意識して聞いたり発表したりできるような声かけをする。	・一人で考える(書く)場面と対話の場面は繰り返し設定できた。 ・友達の発言に繋げて、自分の考えを発表できる児童が増えた。 ・対話の目的を意識できる言葉がけがなかなかできなかった。 ・一部の児童で話し合いが進み、全体で練り上げや振り返りが不十分だった。	話し合いの目的や流れが明確になるよう、電子黒板やタブレット端末を使って視覚化し、全体に周知する。ペア、グループ、全体での話し合いなど適切な方法で対話の場面を取り入れ、自分の思いや考えをさらに広げられるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ活動や地域との体験・交流学習を通して、自分の課題を明確にし、前向きに取り組める児童が増えた。 ●自ら課題を設定したり最後まで粘り強く取り組んだりすることに課題がある。 ●家庭学習の時間が短い。	・自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・見通しをもって、最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。 ・今までの学びを振り返って、次の学習につなげることができる。	・実態に配慮した授業を行い、課題を解決した達成感と、次への課題意識をもたせる。 ・授業の最初にめあてを示し、最後には振り返りを共有し、認め合わせる。 ・学年便りや家庭学習の手引きなどを通して、学校や家庭で身につけさせたい力を示し、保護者と連携し、家庭学習の習慣化を図る。	・児童にとって「やりたい・考えたい」と思える課題や問いが生まれる授業づくりを行う。 ・優れたノートを掲示して児童の意欲の向上を図る。 ・家庭学習の手引きの改善に取り組む。	・めあては提示できた。 ・「やりたい・考えたい」と思える課題や実態に配慮した授業づくりができた。 ・自ら課題を設定したり、粘り強く取り組んだりすることは不十分だった。 ・保護者と連携し、継続的に家庭学習の習慣化を呼びかけることは十分ではなかった。	児童主体でめあてを設定したり優れたノートを掲示したりすることで、学習意欲を高める。また、家庭学習の手引きの改善を図って早期に配付する。学年便り等で継続的に家庭学習の大切さを伝えながら、主体的に学習に取り組む態度の育成に努める。

令和2年度 学力向上ロードマップ



